

『みんな北齋プロジェクト 2017-18 アニメで墨田!』とは

2020年に計画中の大規模企画に向けた墨田区内のさらなる気運醸成と、障害のある人が区内で文化・表現活動できる機会を増やし、活躍の環境と循環をつくることを目的とした『みんな北齋プロジェクト』によるアートワークショップ企画です。障害のある人のアート活動においてはまだ例の少ないアニメーション作りを通し、多様な参加方法と協働の可能性を探りました。

ワークショップとアニメーションの監修は、漫画家でアーティストのしりあがり寿氏。北齋好きの文化人として知られ、すみだ北齋美術館でも個展や講演を行っています。しりあがり氏によるアイデア「墨田三十六景」をもとに、ワークショップを構成。生まれた作品を素材に作られたアニメーション『アニメで墨田!』をお楽しみください。



しりあがり寿（しりあがりことぶき）

プロフィール：1958年静岡県生まれ。1981年多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業後キリンビール株式会社に入社し、パッケージデザイン、広告宣伝等を担当。1985年単行本『エレキな春』で漫画家としてデビュー。パロディーを中心にした新しいタイプのギャグマンガ家として注目を浴びる。1994年独立後は、幻想的あるいは文学的な作品など次々に発表、新聞の風刺4コママンガから長編ストーリーマンガ、アンダーグラウンドマンガなど様々なジャンルで独自の活動を続ける一方、近年では映像、アートなどマンガ以外の多方面に創作の幅を広げている。代表作に『真夜中の弥次さん喜多さん』『弥次喜多 in DEEP』等。

『みんな北齋プロジェクト』とは

北齋が生きたすみだから、新しい障害者アートの波を起こそうと、すみだ北齋美術館の開館記念プロジェクトとして2016年にスタートしました。

生きる喜びを生みだし、違いを超えて人と人をつなぐ力があるアートと、時空を超え、今なお世界の人々に感動を与え続けている江戸の天才画家葛飾北齋を軸に、北齋が生きたまち東京都墨田区で全国障害者アート公募展「みんな北齋」を開催しました。北齋の自由で奇想天外な芸術性をテーマにした公募には全国から1500点超のすばらしいアート作品が寄せられ、厳正な審査により約100点の入賞入選作品を選出し、12月の東京スカイツリータウンで展示しました。公募展前には北齋をテーマにしたオープンワークショップを実施したり、会期中には入賞者表彰式等のイベントが行われ、来場者は3000人を超えました。

